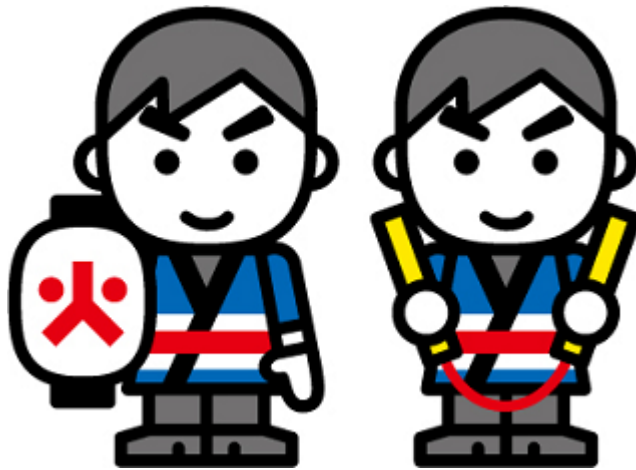


市民防火・市民防災





# 民間防火防災組織の状況

## (1) 自主防災組織

自主防災組織は、地域に住む住民が平常時からお互いに協力し合い「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉に結成された防災組織です。

令和3年度の主な活動は、自主防災組織のリーダー的役割を担う人材となる「防災士」の養成を推進し、新たに91名の「防災士」が誕生しています。

これにより、本市の「防災士」は令和4年4月末現在で7,379名となり、自治体別では全国一を堅持しています。

また、自主防災組織や防災士を対象とした「防災シンポジウム」や、新型コロナウイルスを踏まえた避難所訓練などを開催して、防災に関する知識・技術の向上を図っています。



「新型コロナウイルスを踏まえた避難所訓練」の様子

(各年4月1日現在)

### 自主防災組織の結成経過状況

年 度	組織数	加入世帯数	松山市世帯数	結成率
平成 7 年度	2	525	173,175	0.3%
平成 8 年度	28	24,177	178,607	13.5%
平成 9 年度	44	37,479	181,379	20.7%
平成10 年度	62	58,612	184,036	31.8%
平成11 年度	74	61,629	186,328	33.1%
平成12 年度	76	62,057	188,366	32.9%
平成13 年度	81	63,917	192,222	33.3%
平成14 年度	87	66,085	194,881	34.0%
平成15 年度	157	79,540	197,658	40.2%
平成16 年度	242	94,692	200,194	47.3%
平成17 年度	319	122,115	215,229	56.7%
平成18 年度	448	143,671	216,298	66.4%
平成19 年度	557	171,479	218,783	78.4%
平成20 年度	721	204,310	221,184	92.4%
平成21 年度	765	222,185	223,610	99.4%
平成22 年度	772	225,830	225,915	99.9%
平成23 年度	773	228,266	228,351	99.9%
平成24 年度	766	225,861	225,776	99.9%
平成25 年度	759	227,669	227,699	100 %
平成26 年度	760	229,973	229,973	100 %
平成27 年度	759	242,974	242,974	100 %
平成28 年度	761	244,924	244,924	100 %
平成29 年度	759	246,304	246,304	100 %
平成30 年度	754	247,714	247,714	100 %
平成31 年度	755	249,084	249,084	100 %
令和 2 年度	756	250,633	250,633	100 %
令和 3 年度	753	252,543	252,543	100 %
令和 4 年度	753	253,393	253,393	100 %

## (2) 女性防火クラブ連合会

女性防火クラブ連合会は、昭和51年に婦人防火クラブとして家庭の主婦等により組織され、日ごろの家庭での防火意識の普及啓発を推進しています。昭和55年には、松山市婦人防火クラブ連合会を設立、平成14年度から名称を松山市女性防火クラブ連合会と改称しています。

主な活動は、住宅用火災警報器の設置促進、火災予防運動期間中の大型スーパーでの防火啓発、幼稚園や保育園での防災紙芝居教室の開催など、地域に根付いた防火・防災活動に取り組んでいます。

令和4年4月1日現在のクラブ数は、39クラブ(地区)、クラブ員数74,968名です。



「松山市総合防災訓練」での炊出しの様子

## (3) 幼年消防クラブ

何にでも興味を持ち始める幼年期の子供たちに、火の大切さや火の取り扱いを間違えたときの恐ろしさなどを教えるため、昭和55年に幼稚園・保育園児を対象に幼年消防クラブを結成し、消防署の見学、消防車両の試乗、消防訓練の見学、正しい花火の遊び方などを学習しています。

主な活動は、みんなの消防フェスタで防火・防災に関する様々なコーナーを体験したり、防災紙芝居教室などを通して、楽しみながら防災への知識を養ったりしています。

令和4年4月1日現在の加入園数は、101園、クラブ員数11,092名です。



かるたを使った防災学習の様子

#### (4) 少年消防クラブ

少年のころから、正しい火災予防の知識を身に付け、学校や各家庭からの火災の減少を図るため、昭和52年から小学校単位で結成されています。

主な活動は、一日消防学校や消防フェスタなどに参加し、楽しみながら防災学習に取り組んでいます。また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防や防火・防災に関する内容をテーマにしたかるたの絵札を作成し、防災への知識を深めました。

令和4年4月1日現在の加入校数は45校、クラブ員数540名です。



「一日消防学校」での学習の様子

#### (5) 防火連絡協議会

防火連絡協議会は、昭和40年に各事業所の防火管理者等により結成され、防火・防災に関する研修などを通して、防火管理体制の徹底を図っています。

主な活動は、新入社員をはじめ、防火管理者の資格を取得してから一定の期間経過した方を対象にした研修会や、救命講習会などを実施しています。また、防災士などの各種資格を取得した際の補助制度の拡充を図っています。

令和4年4月1日現在の加入事業所数は、653事業所です。



「防火研修会」の様子

## 防火防災車両の状況

### (1) 消防マスコットカー

平成14年度に導入した消防マスコットカーの老朽化に伴い、平成29年3月に松山共済協同組合から消防車をモチーフとしたバッテリーカーを寄贈していただきました。

この車両は、イベント・訓練・研修会で展示や試乗するなど、園児や児童の防火防災意識の高揚に役立っています。



仕 様	
乗車定員	2人乗り (大人1名、子ども1名)
動力	DCモーター
車両重量	本体重量 70kg
	総重量 (バッテリー含む) 90kg
全長×全幅×全高	1,280×930×800(mm)
連続稼働時間	約4～5時間
使用バッテリー	鉛蓄電池 (電圧: DC12V)
標準充電時間	約10時間

### (2) 地震体験車

昭和55年に配備された初代起震車の老朽化に伴い、平成15年12月に各種防災資機材を搭載した「地震体験車」を導入しました。

この車両の愛称を市内小学生から募集した結果、松山市消防局のキャラクターに関連し「かば号」と名付けられました。

車両のデザインは、走行時でも広く市民に防災啓発できるよう地震への備えを促すデザインとしました。

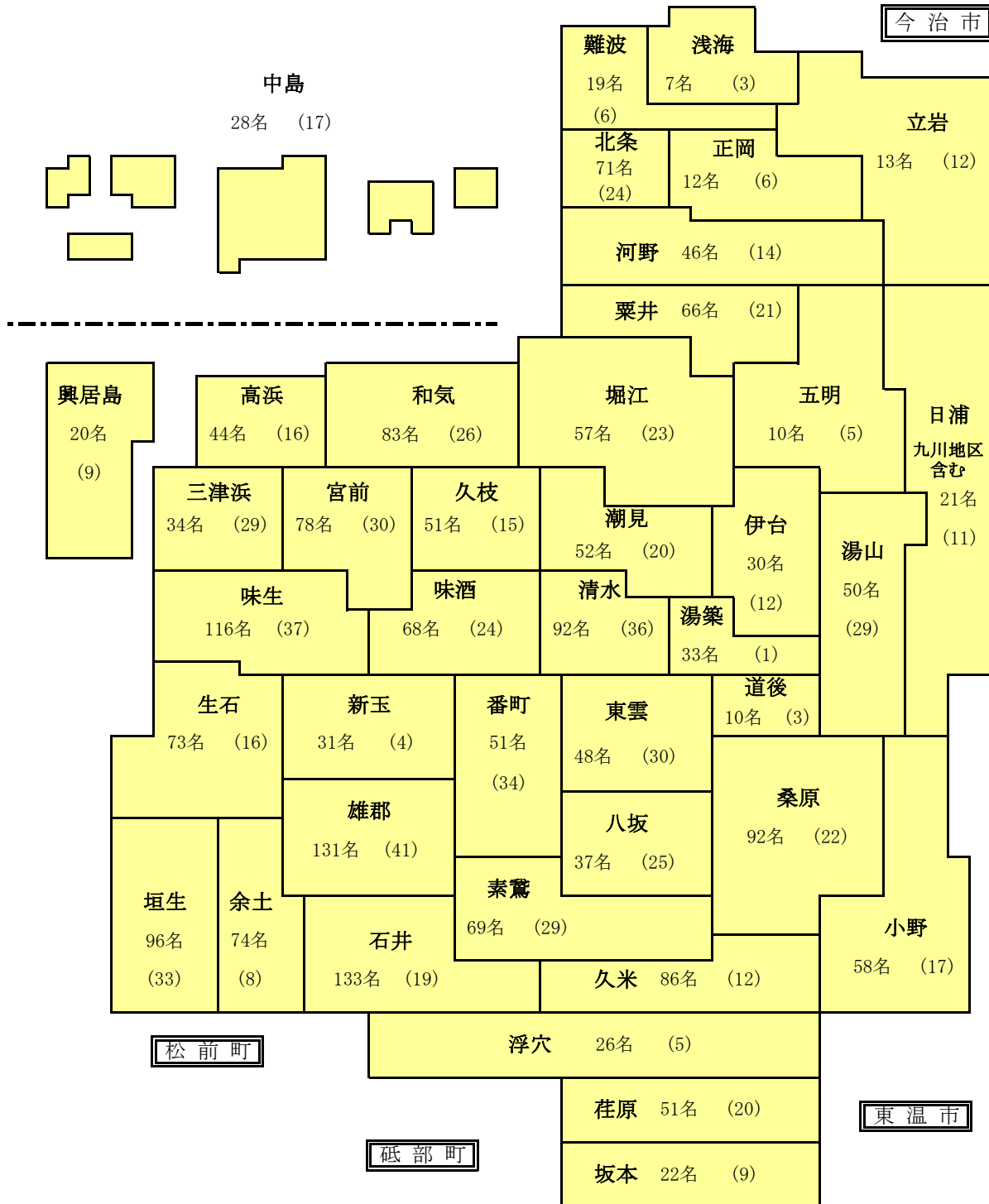
また、体験室は、車椅子での乗降が可能なほか、前後・左右・上下の3方向の振動で、現実の地震に近い揺れを体験できるとともに、兵庫県南部地震や芸予地震等実際に起きた8種類の大地震を再現できる機能も有する仕様としています。



仕 様	
体験室定員	大人4名
車両重量	約7,610kg
全長×全幅×全高	7,230×2,410×3,290 (mm)
付属資器材	視聴覚機器 消火訓練用機材 通報訓練用機材 濃煙訓練用機材 防災広報用機材

# 地区別防災士数及び組織数

(令和4年4月1日現在)



※ 上記数値は、本市が平成17年度以降に全額公費負担により養成した自主防災組織の防災士資格取得者の人数です。( )内は、地区内組織数です。

# MEMO